



食道アカラシア患者に対する食道造影検査時の timed barium esophagogram と食道内圧検査時の rapid drink challenge の比較検討に関する研究

2018年1月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて、食道造影検査および食道内圧検査を受けられた食道アカラシアの患者さん

研究協力をお願い

当科では「食道アカラシア患者に対する食道造影検査時の timed barium esophagogram と食道内圧検査時の rapid drink challenge の比較検討に関する研究」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2018年1月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて、食道造影検査および食道内圧検査を受けられた食道アカラシアの患者さんの両検査結果を比較する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：食道アカラシア患者に対する食道造影検査時の timed barium esophagogram と食道内圧検査時の rapid drink challenge の比較検討に関する研究

研究期間：研究実施許可日～2025年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 講師 川見 典之

(2) 研究の意義、目的について

食道アカラシアは食道と胃の接合部の括約筋(下部食道括約筋)が緩まずに食べ物が食道から胃に通過しにくい病気です。食道アカラシアの診断が難しい際は、食道造影検査時に薄めたバリウムを200ml飲んでもらい、食道内にバリウムがどのくらいの時間残るかを調べる検査(timed barium esophagogram)や、食道内圧検査時に座った姿勢で200mlの水を飲んでもらい、その時の下部食道括約筋や食道内の圧の上昇の有無を調べる方法(rapid drink challenge)が食道アカラシアの診断に有用とされています。しかしこの2つの検査法がどの程度同じ結果を示すか(相関するか)は詳しく分かっておらず、今回の研究はこの2つの検査法を比較することが目的です。

(3) 研究の方法について(研究に用いる試料・情報の種類)

2018年1月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて、食道造影検査および食道内圧検査を受けられた食道アカラシアの患者さんの検査結果やカルテ情報を診療録より収集し、食道造影検査時の timed barium esophagogram の結果と食道内圧検査時の rapid drink challenge の結果を解析し比較します。

この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、病期期間、上部消化管内視鏡検査結果、食道造影検査結果、食道内圧検査結果、既往歴など

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 講師 川見 典之

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

電話番号：03-3822-2131(代表) 内線：24085

メールアドレス：s5038@nms.ac.jp